



* 弥生3月 (LE MOIS DE MARS)

2月が28日で終り、二、三日少ないだけですのに、3月が早くやって来たような気がします。「弥生」の由来は“草木がいよいよ生い茂る月”という意味とは、物識りの友人が教えてくれました。3日は“桃の節句”「雛祭り」、“明かりを点けましょボンボりに、お花を上げましょ桃の花...”春を迎えた綺麗な行事です。こちらでは3月は《MARS》、ローマ神話に出てくる軍事と農耕の神様“マルス”の月なのだそうで、別に“火星”の意味もあります。これからは、外出の行き帰り、パリへの郊外電車 RER・B 線の窓外の景色の中に、何か芽を出してないか、何か咲いていないか、好奇心に満ちて眺め回しては、何か見つければ、嬉しい季節です。ソー駅 (Sceaux) のホーム脇の草むらや、電車がブル・ラ・レーヌ駅 (Bourg-la-Reine) に差し掛かる辺りの土手には、緑が増え、白く、黄色く、薄桃色にプリマベラが咲きました。我がアパートの庭で、いつもはやや急ぎ足で通り抜けている所に、偶々暖かな陽光が当たって気持ちよく、よく見ましたら、ポプラの木の根元の草の中に小さなスミレ (la violette) が沢山に咲いているのに気が付きました。色が増えて来ました。大気もさらに柔らかくなり、小桜のようなアマンディエ (l' amandier)、黄色に華やかな連翹 (le forsythia) も咲き始めることでしょう。と云っても、未だ凍るように寒い朝 (la matinée glaciale) があったり、アラレ混じりのにわか雨 (la giboulée printanière) があったり、天気は落ち着きませんが、3月20日は、こちらで“春分の日” (le Printemps)、そして29日 (日) の午前2時から“夏時間” (l' heure d' été) となって、時計の針を1時間進めますから、朝の7時はもう8時、“春眠不覚曉”などと洒落ていると遅刻です。日本との時差は7時間、こちらの午前10時は日本の午後17時ですからお間違えなきよう...。ところで日本から着いた友人が「こんなもの読むかい？」と2日遅れの日本の新聞をくれました。それによると、熱海の梅園の472本、59種もの梅花が満開、ほのかな香りが漂ってくるようです。そして静岡・河津町では早咲きの“河津桜” (新種でしょうか、染井吉野ではなさそうです。) が見頃を迎えた由。河津川沿い約4kmに亘り800本の桜並木がほぼ満開とありますから、これからは桜の“花便り”が次第に北上して、暫くの間の話題となるのでしょうか。そのページの下の方の広告欄を見ましたら、「三春の滝桜」や「隅田川千本桜クルーズ」等と並んで「目黒川桜クルーズ」というのが目に留まりました。「えッ、この“目黒川”って、あの“目黒川”??桜の花はともかく“クルーズ”とは??。」自分が“浦島太郎”になった気がしました。同じ欄には「南極への船旅」もあれば近郷への温泉旅行もあり、“グルメ・バイキング・プラン”や「北海道グルメ・フェア」...、「食べ放題...」...、一般に誰もが旅行好きであるのは解ります。しかし何と云っても皆さん“グルメ”がお好きですね。



* 復活祭 (LES PAQUES)



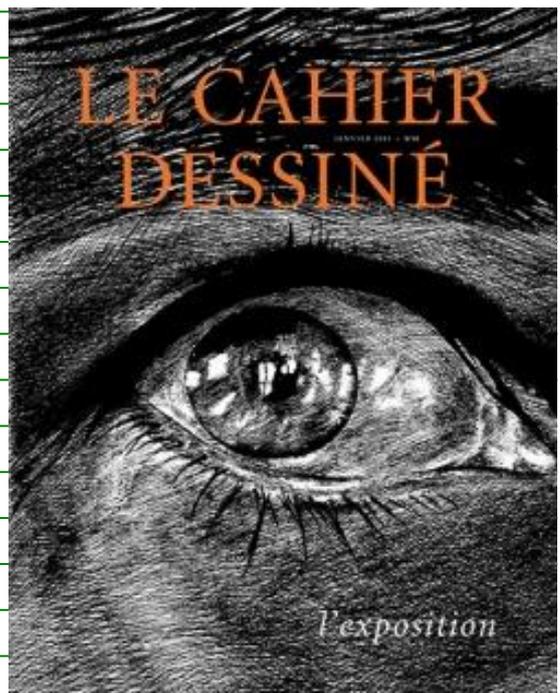
英語のイースター (Easter) の方が知られていますが、キリストの復活を祝う大祭日、春分の日後最初の満月の後の日曜日で、旧くは春の女神 Eostre の祭日だそうで、今年は4月5日の日曜日、とにかく春らしい華やかな日に当たります。パン屋やお菓子屋のウィンドー、スーパーの菓子売り場にはチョコレートやマジパン (la pâte d'amandes) で作った卵、ヒヨコ、鶏、リス、兎などの小動物が綺麗に包まれ、リボンで飾られて籠に入ったり、仲良く楽しく並んでいます。そして4月1日はご存知“エイプリル・フル”、フランスでは何故か“4月の魚”(le poisson d'avril) と呼んで、魚の形をしたチョコレートも仲間入りです。

その昔若きルイ14世を嫉妬させ、ヴェルサイユ宮殿を造らせる原因となったヴォー・ル・ヴィコント城の主、時の財政総監ニコラ・フーケ (Nicolas Fouquet (1615-1680)) の生誕400年を記念して、4月4日から6日迄、当城の広大な庭園では、子供達が草むらや茂みに隠された卵を探して遊ぶ、伝統に基づいた“イースター・エッグ探し”(Chasse à l'oeuf pour Pâques) の行事が行なわれます。 www.vaux-le-vicomte.com

* 「デッサン帖」展 (Expo. LES CAHIERS DESSINES)

パリのマルシェ・サン・ピエールをご存知ですか。モンマルトルのサクレール大聖堂の立つ丘の麓、洋裁や手芸の好きな方なら生地を探しに一度は行ったことのある布地の市場です。この古い建物の中のスペースを利用して、「デッサン帖」という2002年10月に出来た出版社が催すデッサン、イラスト、クロッキー、といった種類のアート、ヴィクトール・ユーゴからヴァロトン、アレチンスキー、トポール、スタインバーグ、コピ、ヴィレム、ボスク、サンペを経てキキ・スミスに至る67人のアーティストが描いた“万国共通の言葉”(le langage universel) 500点を展示して「デッサンと呼ぶものは何か」(Qu'appelle-t-on le dessin?) との質問に返答しています。

8月14日迄毎日11時-18時、Hall Saint-Pierre (2, rue Ronsard, 75018 Paris, メトロ Anvers, Abbesses 下車) 入場料 8ユーロ



*「未だ肌寒さの残る 3 月の或る水曜日のこと」(En ce mercredi frisquet de Mars....)

パリ 1 区の消防署の電話が鳴りました。何か不安そうなその声は「硬い鱗の、魚にしては一寸大きい何かが、ポン・ヌフ (le Pont-Neuf) 近くのセーヌ河を泳いでいるのを見た」というもので直ぐにゴダール隊長を先頭に消防隊が駆けつけ、辺り一帯を探しましたが何も見付からず終い、地下の下水道の中を捜索することになりました。(Ils décident donc de fouiller le réseau d'égouts.) どの位の時間が過ぎたでしょうか、下水道で消防隊が出会ったのは、何と体長 1m 位の鱷 (un crocodile) でした。シャベルやホウキを使って奮戦の結果尻尾と口を押さえ込んで捕まえ、まずは植物園 (le Jardin des Plantes) に運び込んで収容しました。検診に当たった獣医によれば、「推定年令 2 才のメスで、体長 95cm、“ナイルの鱷” と呼ばれる種類で (l' espèce des crocodiles du Nil) 地下の下水道が温度、湿度も丁度よく、餌になる鼠も沢山居て、居心地が良かったのでは、、、それが春に浮かれてセーヌ河へ出て、つい泳いでしまった、、、。」「原因は 2 つ、セーヌ沿いの動物屋か、何処かのサーカスから逃げ出したか、アマチュアの飼い主が手に負えなくなって捨てたのか、のどちらかであろう、、、まア、サン・マルタン運河でピラニアが釣れる時代だから、、、??？」数ヶ月後、ブルターニュ地方ヴァンヌの水族館にもらわれ、“エレアノール” (Eléanore) と名付けられました。

今から丁度 30 年前、1985 年 3 月のお話です。今では体長 3 m 余り、体重 200kgs を超えるにまで成長、元気になっているとのこと。



*2015 年 3 月 8 日 (日) Saint Jean de Dieu 日の出 07 時 19・日の入 18 時 44 パリ : 朝夕 1°C・日中 18°C 晴天、ニース : 7/16°C 晴天、ストラスブール : 0/15°C 晴天 - 「花玉春爛 花開富貴」(菅)
